

平成 30 年度

東京都がん予防・検診等実態調査
報告書
(概要版)

第1 都民を対象とした調査（都民のがん予防・検診等に関する意識調査）

1 調査の概要

（1）調査目的

「東京都がん対策推進計画（第二次改定）」に基づき施策を展開するにあたり、都民のがん予防に関する意識やがん検診の受診状況等の実態を把握し、都におけるがん予防・検診、健康づくり事業の推進に資することを目的とする。

（2）調査設計

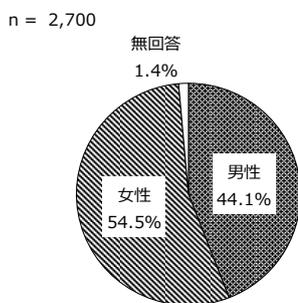
- ア 調査対象 平成30年4月1日現在において、都全域（島しょ地域を除く）に住所がある満20歳以上の男女
- イ 標本の大きさ 5,000人（男性2,436人、女性2,564人）
- ウ 標本抽出方法 住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法
- エ 調査方法 郵送配布・訪問回収
- オ 調査期間 平成30年10月18日から同年12月9日まで

（3）回収結果

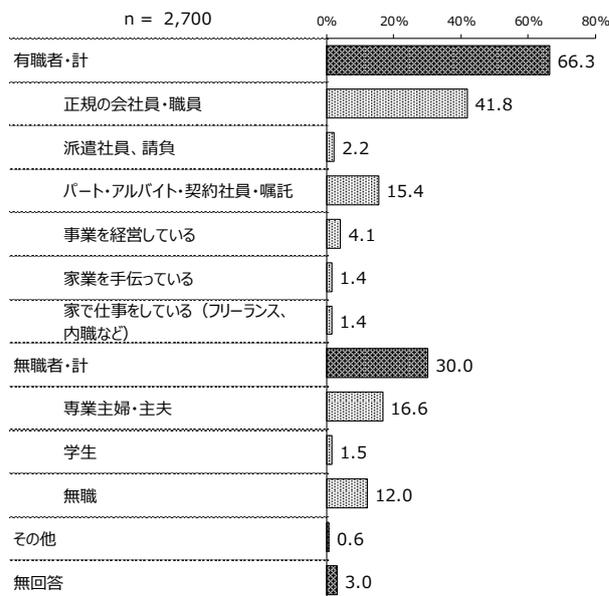
有効回収数 2,700票（有効回収率：54.0%）

（4）回答者の属性

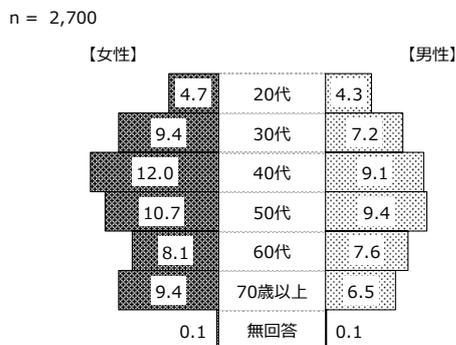
【性別】



【職業】



【年代】

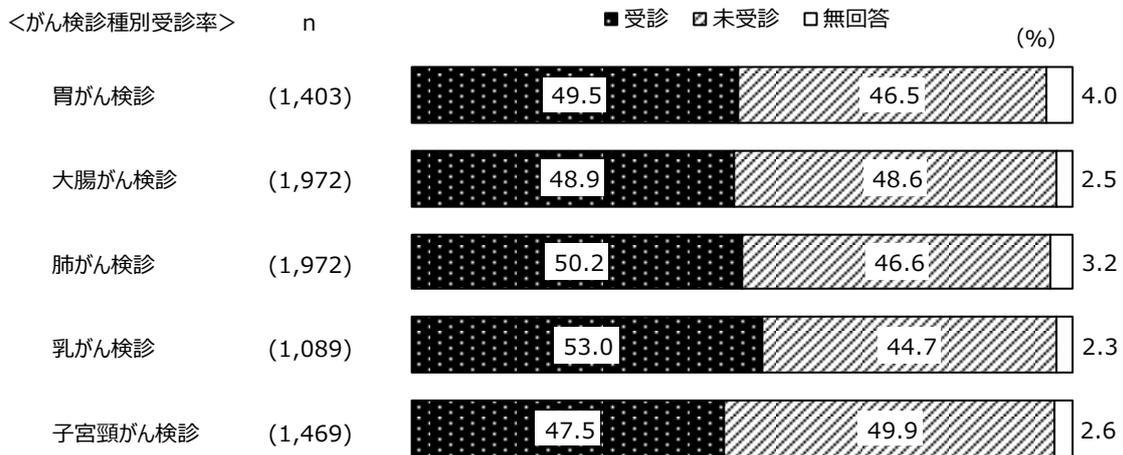


2 調査結果

(1) がん検診の受診率について

各がん検診について、下記の年齢及び性別に該当する回答者をそれぞれのがん検診の受診対象者とし、受診対象者のうち回答で下記の条件を満たした者の割合を、本調査における各がん検診の受診率と定義する。

がん検診の種類	対象年齢・性別	条件
胃がん検診	50歳以上の男女	胃がん検診の受診経験で、「昨年度受けた」と「一昨年度受けた」のいずれか、または両方に回答
大腸がん検診	40歳以上の男女	大腸がん検診の受診経験で、「昨年度受けた」と回答
肺がん検診	40歳以上の男女	肺がん検診の受診経験で、「昨年度受けた」と回答
乳がん検診	40歳以上の女性	乳がん検診の受診経験で、「昨年度受けた」と「一昨年度受けた」のいずれか、または両方に回答
子宮頸がん検診	20歳以上の女性	子宮頸がん検診の受診経験で、「昨年度受けた」と「一昨年度受けた」のいずれか、または両方に回答



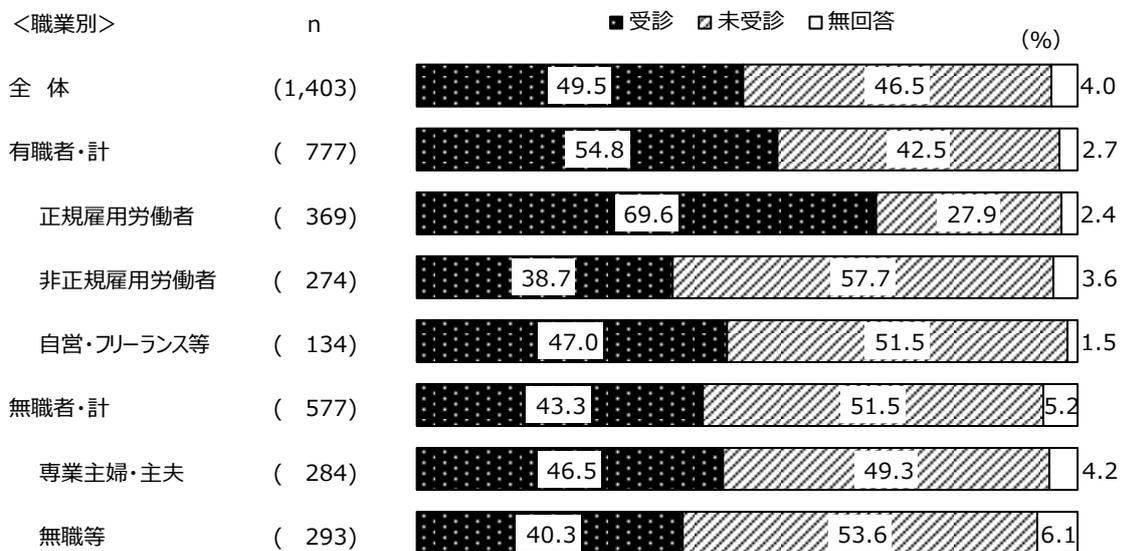
肺がん検診と乳がん検診については受診率が5割を超えているが、胃がん検診、大腸がん検診、子宮頸がん検診では受診率が5割を下回っている。ただし、がん検診種別で受診率に大きな差はみられず、受診率は概ね5割となっていることがわかる。

以降では、各がん検診の受診率について、<職業別>のクロス集計をもとに、傾向をみていく。

なお、取りまとめに際し、職業について以下のように再分類している。

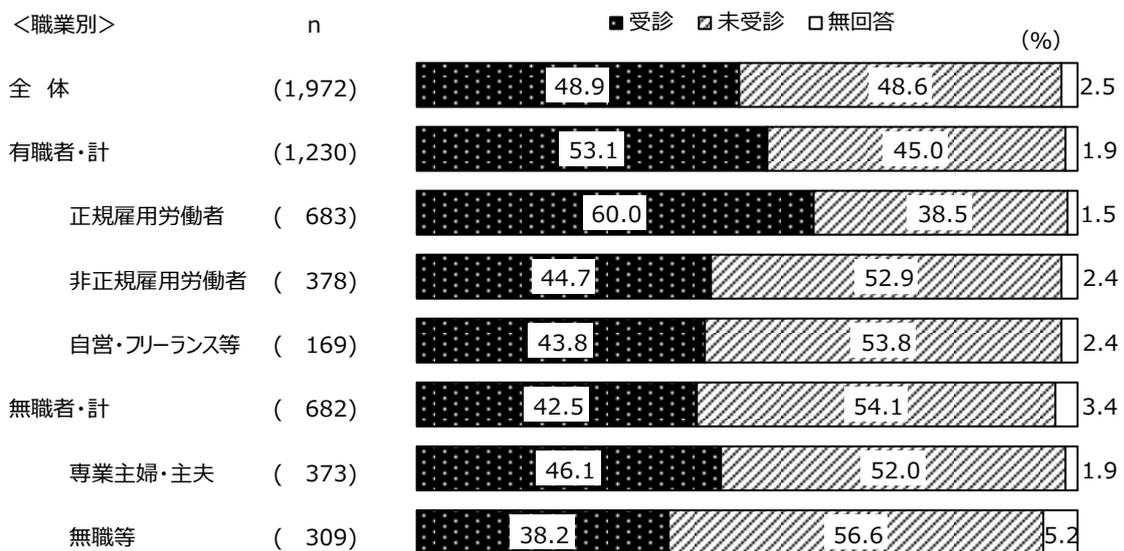
項目名	職業の内容
正規雇用労働者	正規の会社員・職員
非正規雇用労働者	派遣社員、請負、パート・アルバイト、契約社員、嘱託
自営・フリーランス等	事業を営んでいる、家業を手伝っている、家で仕事をしている（フリーランス、内職など）
専業主婦・主夫	専業主婦・主夫
無職等	無職、学生

ア 胃がん検診の受診率



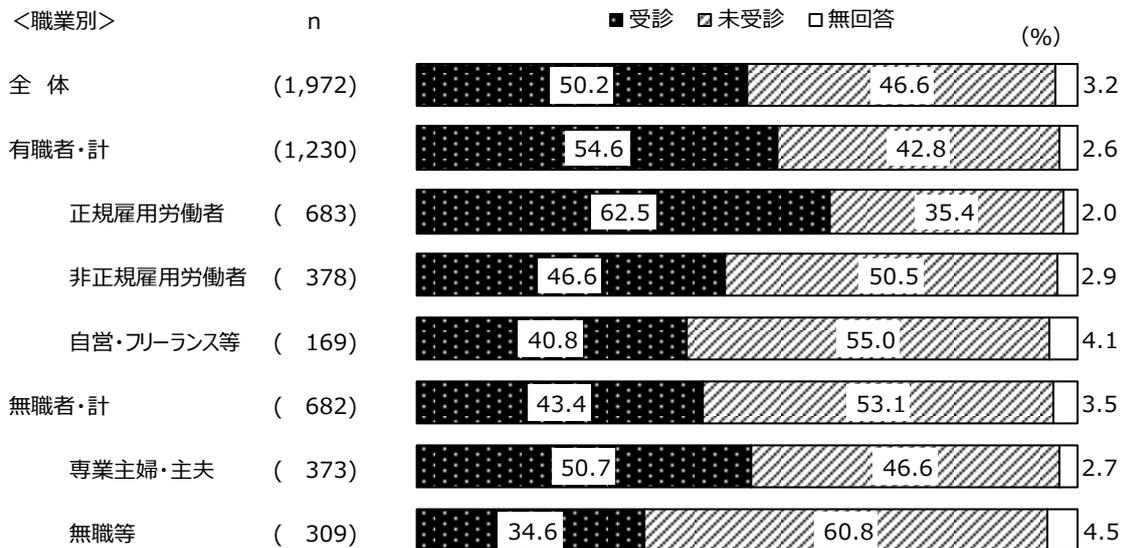
胃がん検診の受診率を職業別にみると、正規雇用労働者で69.6%と最も高くなっており、最も低い非正規雇用労働者（38.7%）と比較すると、30.9ポイントの差がある。正規雇用労働者以外の受診率はすべて5割を下回っており、職場での受診機会が受診率に大きく影響を与えていると考えられる。

イ 大腸がん検診の受診率



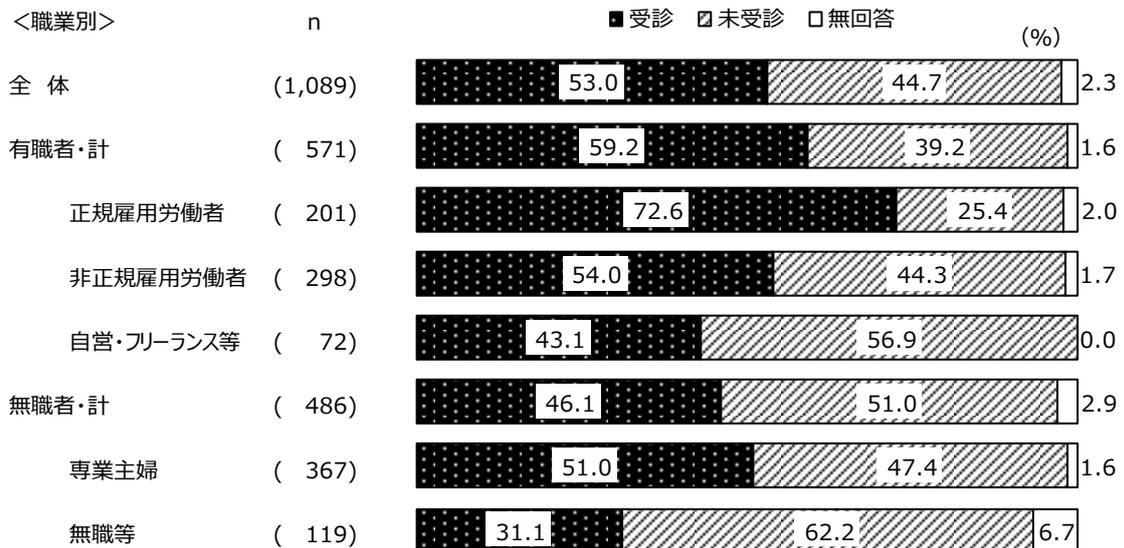
大腸がん検診の受診率を職業別にみると、正規雇用労働者で60.0%と最も高くなっており、非正規雇用労働者（44.7%）と比較すると、15.3ポイントの差がある。正規雇用労働者以外の受診率はすべて5割を下回っており、特に無職等では受診率が4割を下回っている。

ウ 肺がん検診の受診率



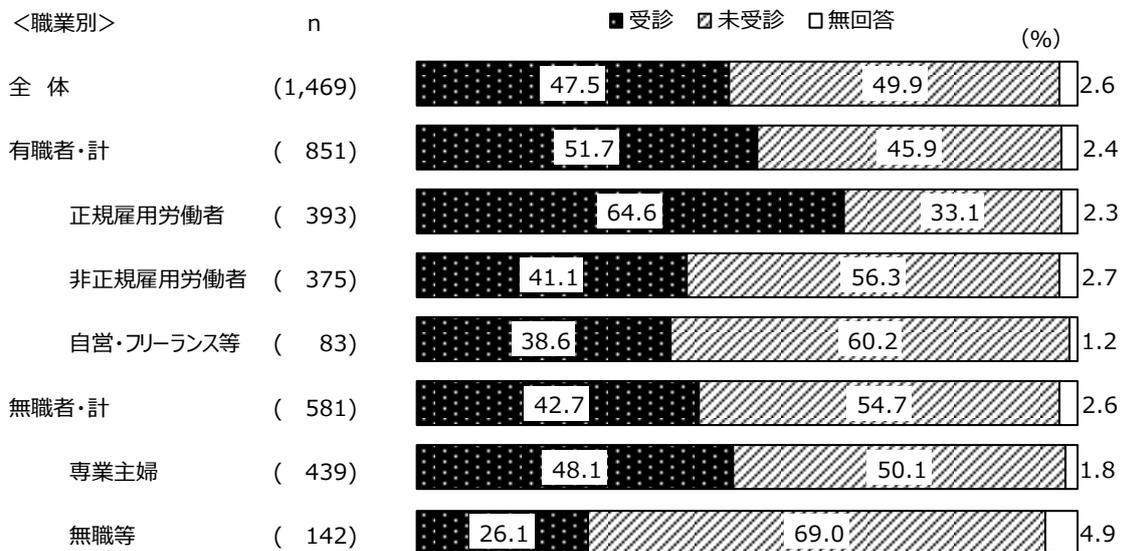
肺がん検診の受診率を職業別にみると、正規雇用労働者で62.5%と最も高くなっており、非正規雇用労働者（46.6%）と比較すると、15.9ポイントの差がある。正規雇用労働者以外では専業主婦・主夫で50.7%と5割を超えている。非正規雇用労働者、自営・フリーランス等、無職等では、それぞれ5割を下回っており、特に無職等では受診率が3割台半ばにとどまっている。

エ 乳がん検診の受診率



乳がん検診の受診率を職業別にみると、正規雇用労働者で72.6%と最も高くなっており、非正規雇用労働者（54.0%）と比較すると、18.6ポイントの差がある。正規雇用労働者、非正規雇用労働者以外では専業主婦で51.0%と5割を超えている。自営・フリーランス等、無職等では、それぞれ5割を下回っている。

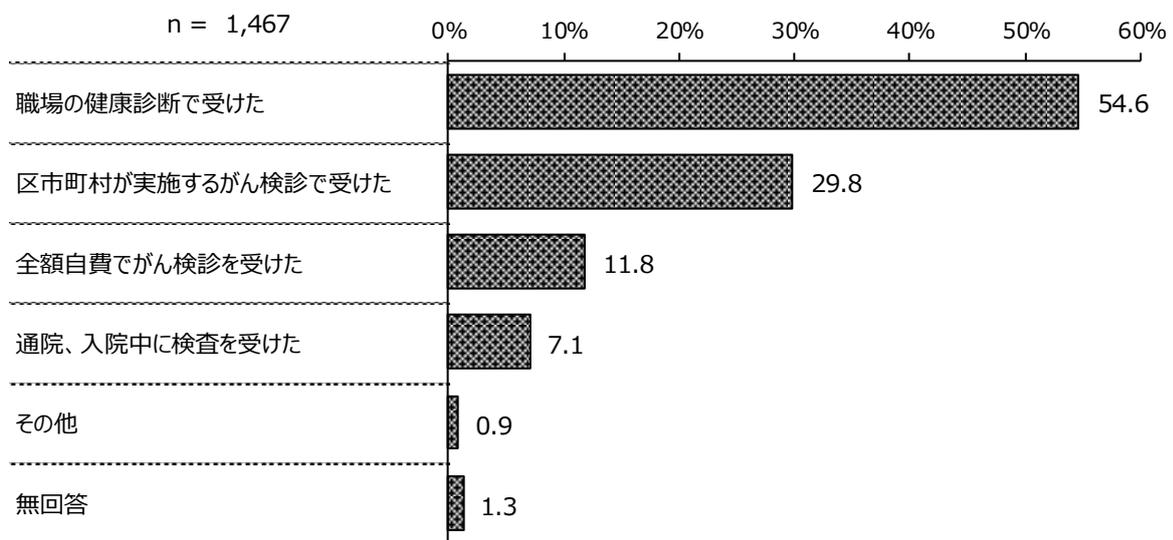
オ 子宮頸がん検診の受診率



子宮頸がん検診の受診率を職業別にみると、正規雇用労働者で64.6%と最も高くなっており、非正規雇用労働者（41.1%）と比較すると、23.5ポイントの差がある。正規雇用労働者以外では、いずれも5割を下回っている。

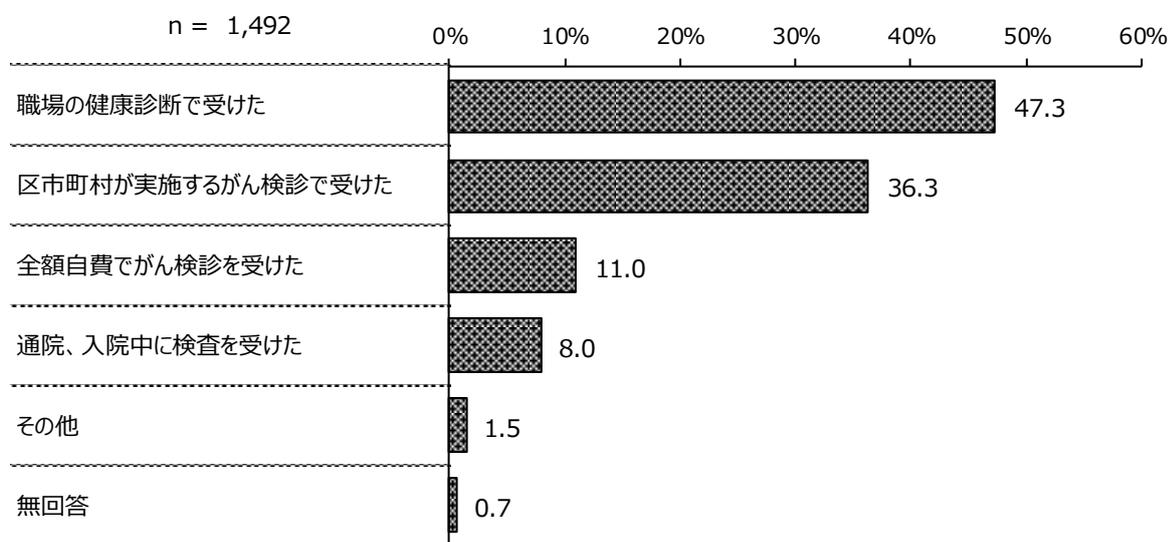
(2) がん検診の受診機会について（複数回答）

ア 胃がん検診の受診機会



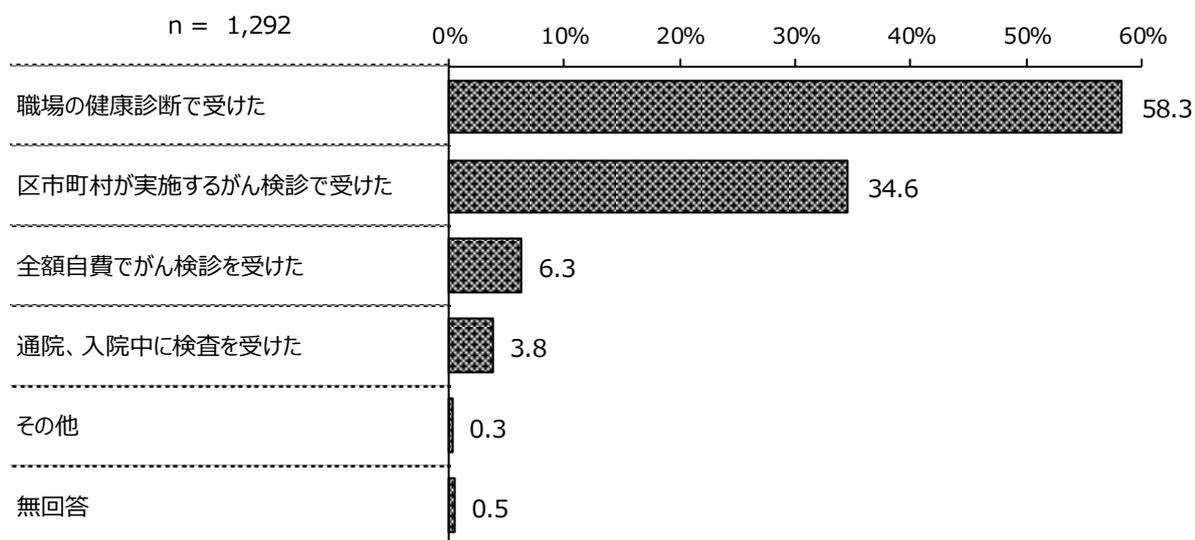
胃がん検診の受診機会は、「職場の健康診断で受けた」が最も高く54.6%、次いで「区市町村が実施するがん検診で受けた」が29.8%となっている。

イ 大腸がん検診の受診機会



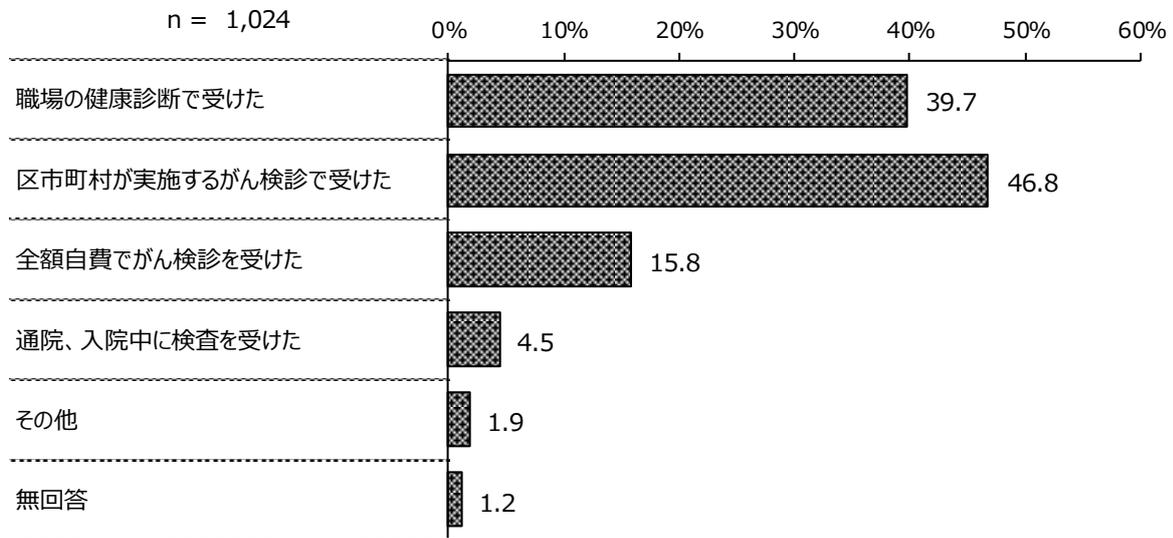
大腸がん検診の受診機会は、「職場の健康診断で受けた」が最も高く 47.3%、次いで「区市町村が実施するがん検診で受けた」が 36.3%となっている。

ウ 肺がん検診の受診機会



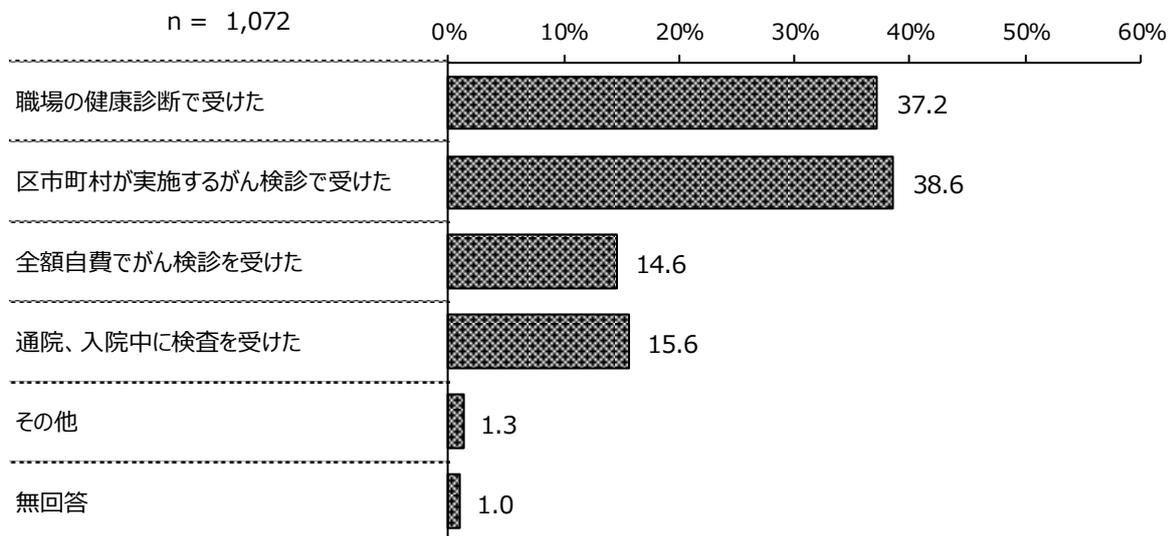
肺がん検診の受診機会は、「職場の健康診断で受けた」が最も高く 58.3%、次いで「区市町村が実施するがん検診で受けた」が 34.6%となっている。

工 乳がん検診の受診機会



乳がん検診の受診機会は、「区市町村が実施するがん検診で受けた」が最も高く46.8%、次いで「職場の健康診断で受けた」が39.7%となっている。

オ 子宮頸がん検診の受診機会



子宮頸がん検診の受診機会は、「区市町村が実施するがん検診で受けた」が最も高く38.6%、次いで「職場の健康診断で受けた」が37.2%となっている。

(3) がん検診を受診しなかった理由について

ア 受診しなかった理由（複数回答）

検診種別	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
胃がん検診	(1,109)	忙しいから（家事、育児、介護、仕事等）	健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていなかったから	健康診断や検診の対象年齢ではないから	面倒だったから	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから
		34.9%	34.8%	23.8%	17.9%	17.1%
大腸がん検診	(1,094)	健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていなかったから	忙しいから（家事、育児、介護、仕事等）	健康診断や検診の対象年齢ではないから	面倒だったから	どこでどのように受診すればよいか、わからなかったから
		36.6%	30.2%	23.9%	19.4%	15.4%
肺がん検診	(1,259)	健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていなかったから	忙しいから（家事、育児、介護、仕事等）	健康診断や検診の対象年齢ではないから	面倒だったから	どのような検査をするか知らないから
		39.5%	28.6%	22.6%	17.7%	16.8%
乳がん検診	(393)	忙しいから（家事、育児、介護、仕事等）	健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていなかったから	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	検査に痛みや苦しさがあと思うから	健康診断や検診の対象年齢ではないから
		33.8%	26.7%	21.4%	18.6%	17.8%
子宮頸がん検診	(343)	忙しいから（家事、育児、介護、仕事等）	健康診断や人間ドック、妊婦健康診査の項目・内容に含まれていなかったから	どのような検査をするか知らないから	健康診断や検診の対象年齢ではないから	面倒だったから
		24.2%	22.4%	18.4%	16.6%	16.6%

がん検診を受診しなかった理由（複数回答）の上位5項目をがん検診種別にみると、がん検診種別で順位に違いはあるものの、「忙しいから（家事、育児、介護、仕事等）」、「健康診断や人間ドック（妊婦健康診査）の項目・内容に含まれていなかったから」、「健康診断や検診の対象年齢ではないから」の3項目はいずれのがん検診においても5位以内に入っている。

がん検診種別で特徴的なのは、胃がん検診では「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」、大腸がん検診では「どこでどのように受診すればよいか、わからなかったから」、肺がん検診では「どのような検査をするか知らないから」、乳がん検診では「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」と「検査に痛みや苦しさがあと思うから」、子宮頸がん検診では「どのような検査をするか知らないから」といった項目が上位に入っている点である。

大腸がん検診の「どこでどのように受診すればよいか、わからなかったから」、肺がん検診と子宮頸がん検診の「どのような検査をするか知らないから」といった項目は、がん検診に関する情報が十分に周知されていないことが一因と考えられる。

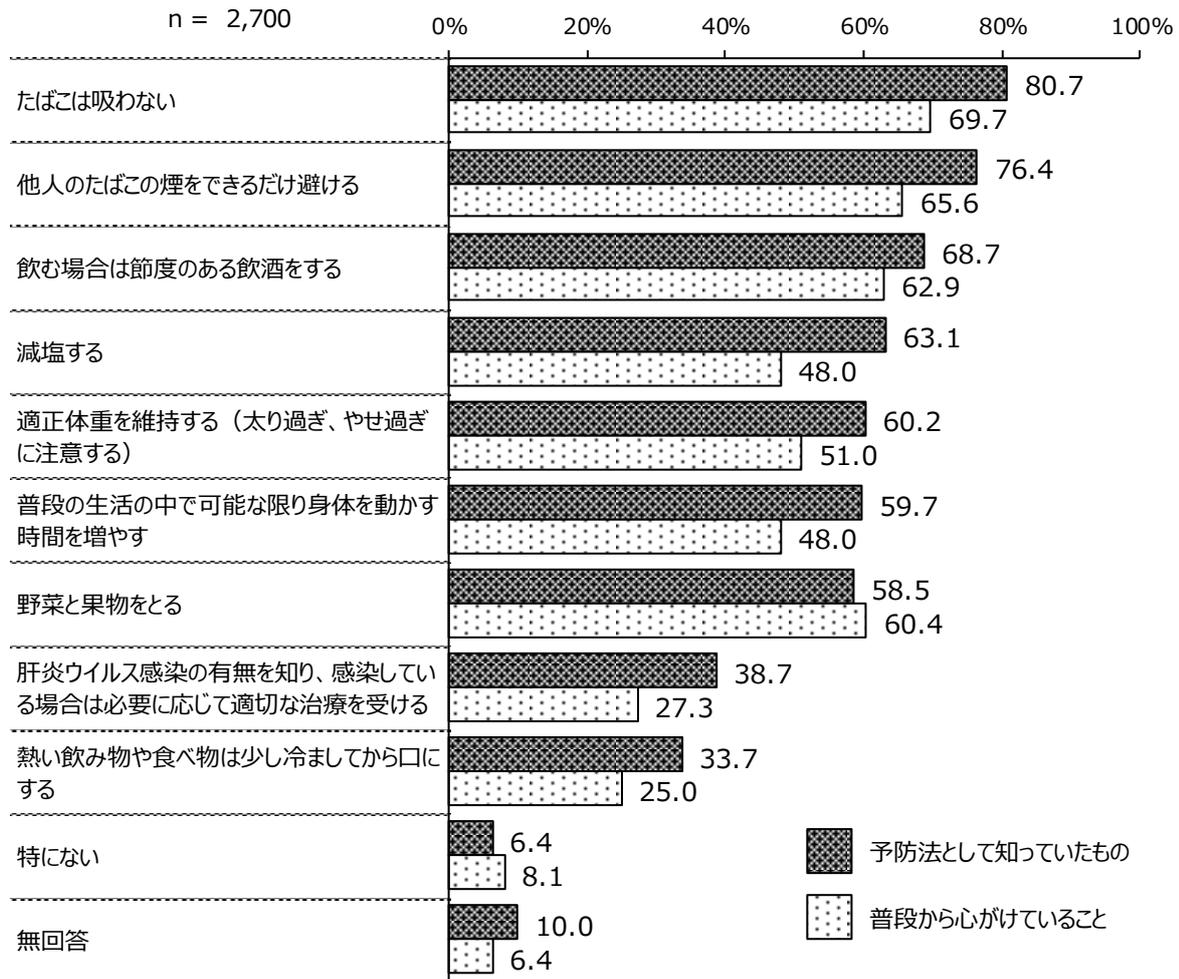
イ 受診しなかった最も大きな理由（単一回答）

検診種別	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
胃がん検診	(1,109)	健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていなかったから	忙しいから（家事、育児、介護、仕事等）	健康診断や検診の対象年齢ではないから	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	面倒だったから
		21.7%	18.4%	13.9%	9.6%	6.9%
大腸がん検診	(1,094)	健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていなかったから	忙しいから（家事、育児、介護、仕事等）	健康診断や検診の対象年齢ではないから	面倒だったから	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから
		26.1%	17.0%	14.7%	8.0%	5.5%
肺がん検診	(1,259)	健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていなかったから	忙しいから（家事、育児、介護、仕事等）	健康診断や検診の対象年齢ではないから	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	面倒だったから
		26.7%	14.7%	12.2%	8.3%	6.4%
乳がん検診	(393)	健康診断や人間ドックの項目・内容に含まれていなかったから	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	検査に痛みや苦しさがあると思うから	忙しいから（家事、育児、介護、仕事等）	健康診断や検診の対象年齢ではないから
		18.8%	16.0%	10.2%	9.4%	9.2%
子宮頸がん検診	(343)	健康診断や人間ドック、妊婦健康診査の項目・内容に含まれていなかったから	健康診断や検診の対象年齢ではないから	どのような検査をするか知らないから	心配なときはいつでも医療機関を受診できるから	検査に痛みや苦しさがあると思うから
		14.3%	11.7%	9.6%	9.6%	8.5%

がん検診を受診しなかった最も大きな理由（単一回答）の上位5項目をがん検診種別にみると、がん検診種別で順位に違いはあるものの、「健康診断や人間ドック（、妊婦健康診査）の項目・内容に含まれていなかったから」、「健康診断や検診の対象年齢ではないから」、「心配なときはいつでも医療機関を受診できるから」の3項目はいずれのがん検診においても5位以内に入っている。

「検査に痛みや苦しさがあると思うから」が乳がん検診では第3位、子宮頸がん検診では第5位に、「どのような検査をするか知らないから」が子宮頸がん検診では第3位に入っている。

(4) 「日本人のためのがん予防法」の予防法別認知度と普段から心がけていることについて(複数回答)

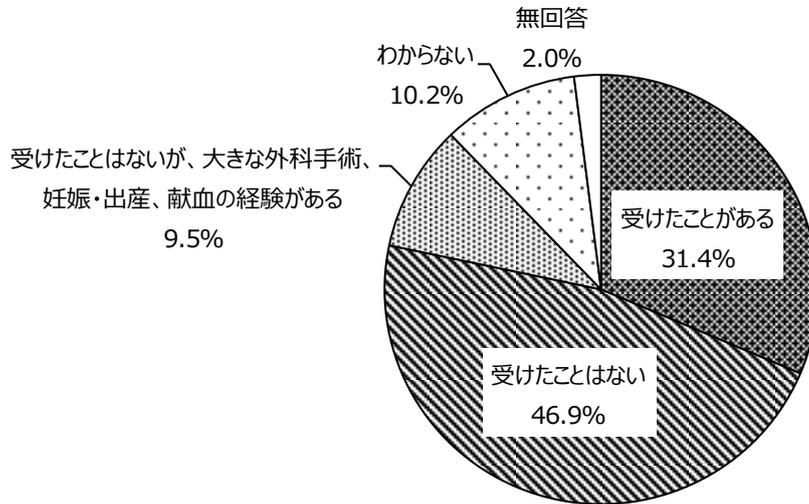


「日本人のためのがん予防法」の予防法別認知度の上位3つは、「たばこは吸わない」が80.7%、次いで「他人のたばこの煙をできるだけ避ける」が76.4%、「飲む場合は節度のある飲酒をする」が68.7%となっている。

普段から心がけていることの上位3つは、「たばこは吸わない」が69.7%、次いで「他人のたばこの煙をできるだけ避ける」が65.6%、「飲む場合は節度のある飲酒をする」が62.9%となっている。

(5) 肝炎ウイルス検診の受診経験について

n = 2,305



肝炎ウイルス検診の受診経験は、「受けたことがある」が 31.4%、「受けたことはない」が 46.9%となっている。

第2 都内事業所・健康保険組合を対象とした調査（職域におけるがん予防・検診等に関する調査）

1 調査の概要

（1）調査目的

「東京都がん対策推進計画（第二次改定）」に基づき施策を展開するにあたり、都民の受診機会の多くを占める事業所及び健康保険組合におけるがん検診の実施状況やがん予防に向けた取組等の実態を把握し、都におけるがん予防・検診、健康づくり事業の推進に資することを目的とする。

（2）調査設計

- | | |
|----------|--|
| ア 調査対象 | 平成30年4月1日現在において、都全域（島しょ地域を除く）に所在地がある事業所及び本部を有する健康保険組合 |
| イ 標本の大きさ | (ア) 事業所 3,300 事業所
(イ) 健康保険組合 100 組合 |
| ウ 標本抽出方法 | (ア) 事業所 都内の民営事業所から日本標準産業分類を基に類型化した9分類と、事業所規模に応じた3分類での層化後、無作為抽出
(イ) 健康保険組合 無作為抽出 |
| エ 調査方法 | 郵送配布・郵送回収 |
| オ 調査期間 | (ア) 事業所 平成30年11月26日から同年12月21日まで
(イ) 健康保険組合 平成30年12月3日から同年12月21日まで |

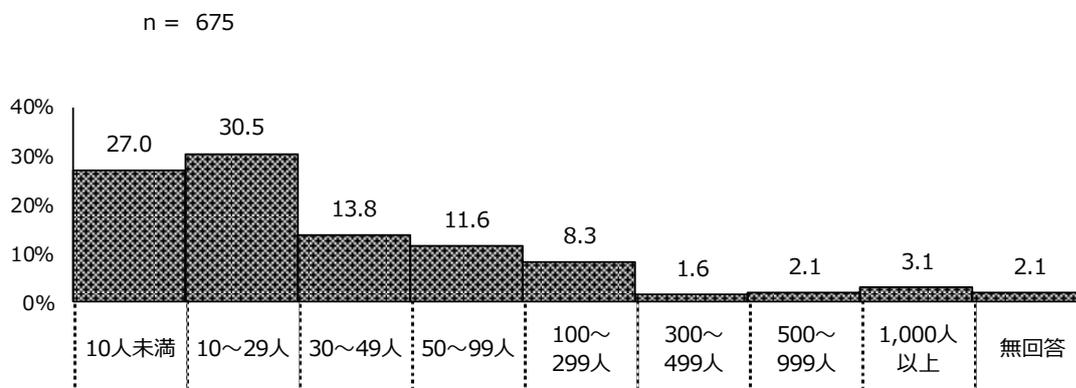
（3）回収結果

- | | |
|----------|-----------------|
| ア 事業所 | 675 事業所 (20.5%) |
| イ 健康保険組合 | 64 組合 (64.0%) |

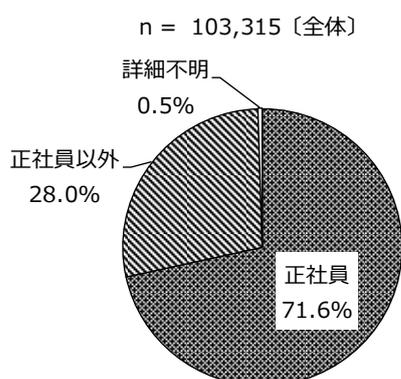
(4) 回答者の属性

ア 事業所

【従業員数】

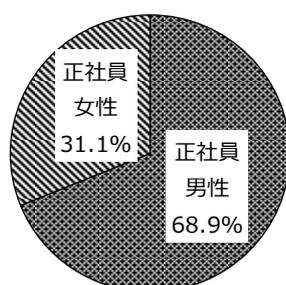


【事業所全体の従業員構成比】



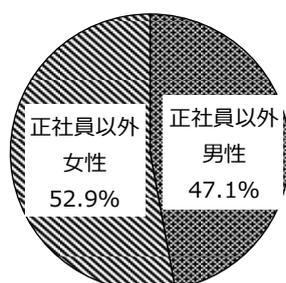
	全事業所 合計	正社員	正社員以外	詳細不明
人数	103,315人	73,923人	28,888人	504人
割合	100.0%	71.6%	28.0%	0.5%

n = 73,923 [正社員 (性別)]



	全事業所 正社員合計	正社員 男性	正社員 女性
人数	73,923人	50,912人	23,011人
割合	100.0%	68.9%	31.1%

n = 28,888 [正社員以外 (性別)]

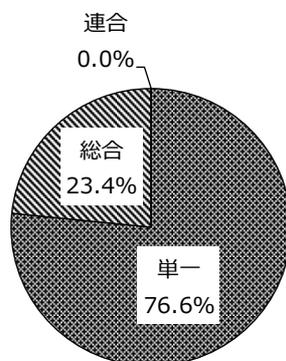


	全事業所 正社員以外 合計	正社員以外 男性	正社員以外 女性
人数	28,888人	13,611人	15,277人
割合	100.0%	47.1%	52.9%

イ 健康保険組合

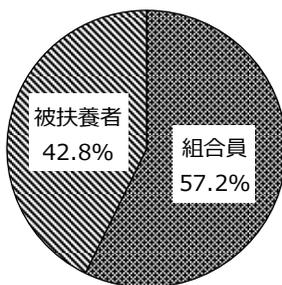
【設立形態】

n = 64



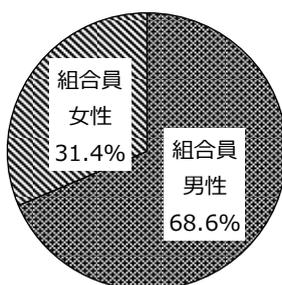
【健康保険組合全体の被保険者構成比】

n = 2,846,176 [全体]



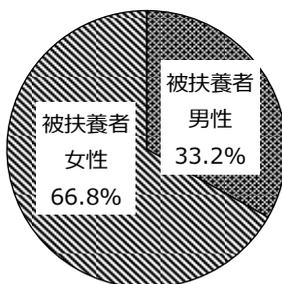
	全健康保険組合		
	合計	組合員	被扶養者
人数	2,846,176人	1,628,687人	1,217,489人
割合	100.0%	57.2%	42.8%

n = 1,628,687 [組合員 (性別)]



	全健康保険組合		
	組合員合計	組合員 男性	組合員 女性
人数	1,628,687人	1,117,352人	511,335人
割合	100.0%	68.6%	31.4%

n = 1,217,489 [被扶養者 (性別)]



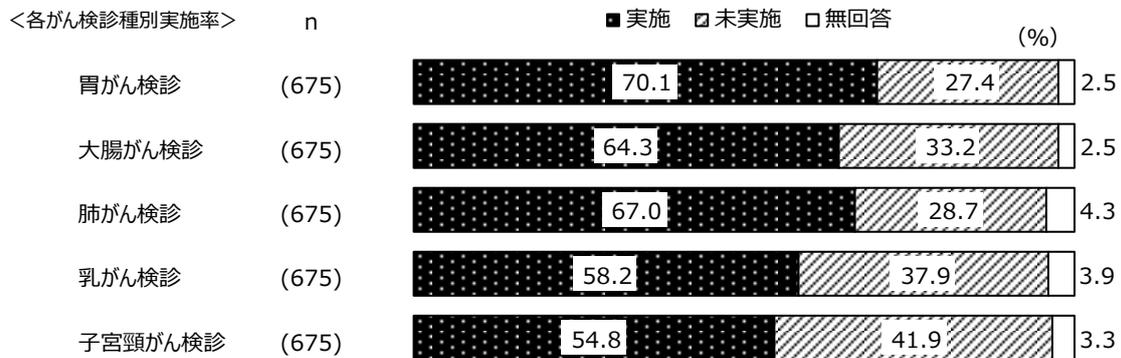
	全健康保険組合		
	被扶養者合計	被扶養者 男性	被扶養者 女性
人数	1,217,489人	404,121人	813,057人
割合	100.0%	33.2%	66.8%

2 調査結果

(1) 事業所調査

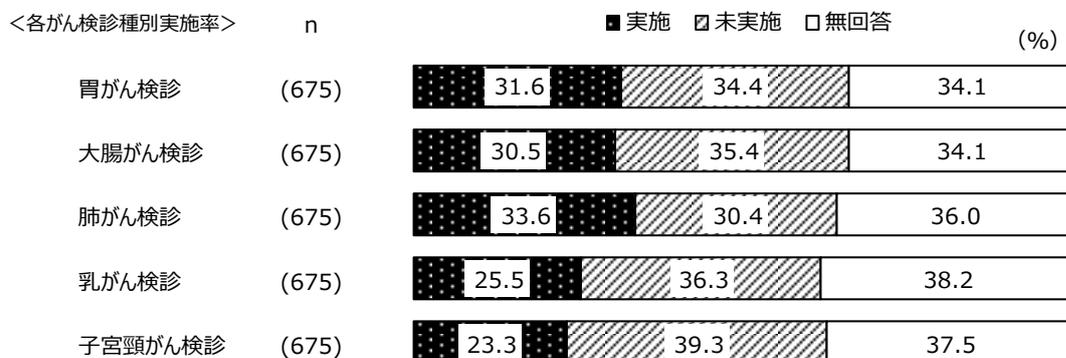
ア がん検診の実施率について

〔正社員〕のがん検診の実施率



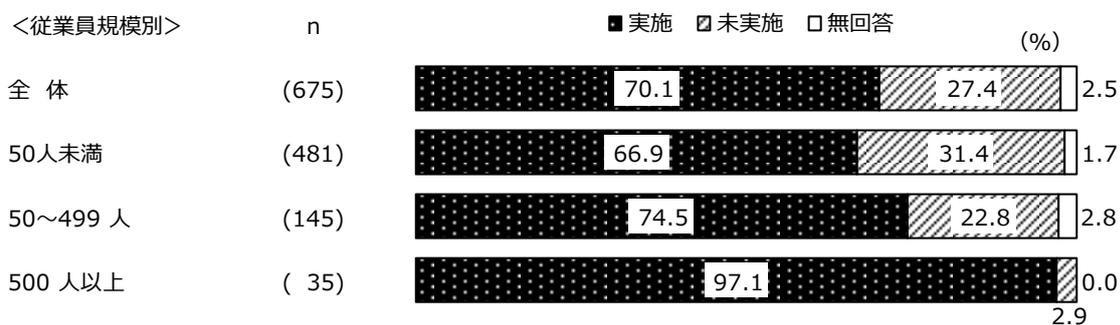
がん検診の実施率は、〔正社員〕では胃がん検診の実施率が最も高く70.1%、次いで肺がん検診が67.0%、大腸がん検診が64.3%、乳がん検診が58.2%、子宮頸がん検診が54.8%となっている。女性を対象とした乳がん検診と子宮頸がん検診については、実施率が6割を下回る結果となっている。

〔正社員以外〕のがん検診の実施率



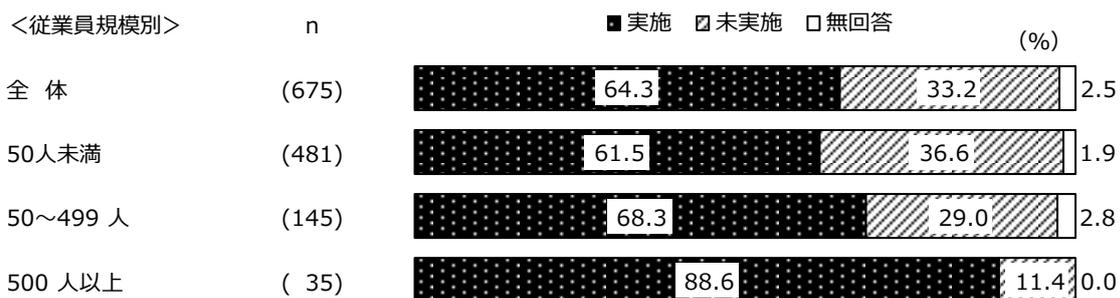
〔正社員以外〕では肺がん検診の実施率が最も高く33.6%、次いで胃がん検診が31.6%、大腸がん検診が30.5%、乳がん検診が25.5%、子宮頸がん検診が23.3%となっている。肺がん検診を除く4つのがん検診において、未実施が実施を上回っている。

(ア)胃がん検診の実施率 [正社員] <従業員規模別>



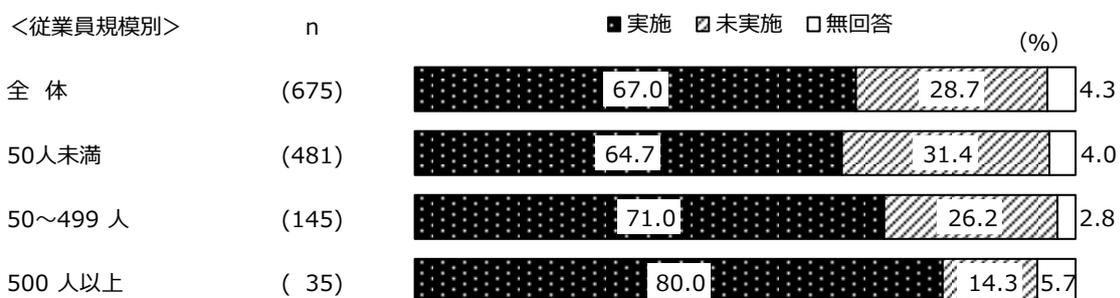
胃がん検診の実施率を従業員規模別にみると、[正社員] では【500 人以上】で 97.1%と最も高く、次いで【50~499 人】が 74.5%、【50 人未満】が 66.9%となっている。

(イ)大腸がん検診の実施率 [正社員] <従業員規模別>



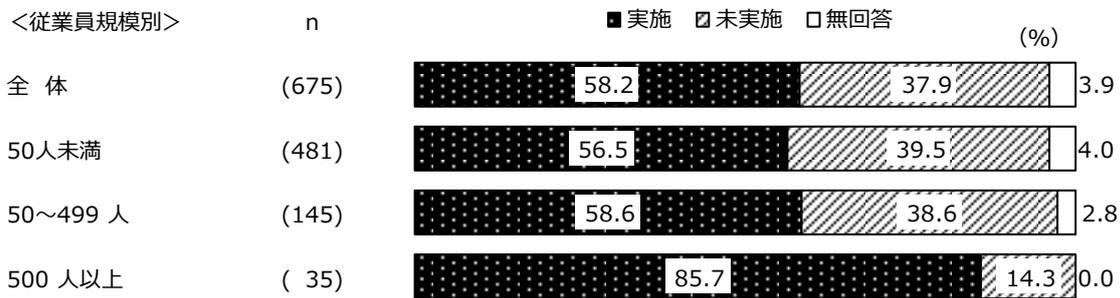
大腸がん検診の実施率を従業員規模別にみると、[正社員] では【500 人以上】で 88.6%と最も高く、次いで【50~499 人】が 68.3%、【50 人未満】が 61.5%となっている。

(ウ)肺がん検診の実施率 [正社員] <従業員規模別>



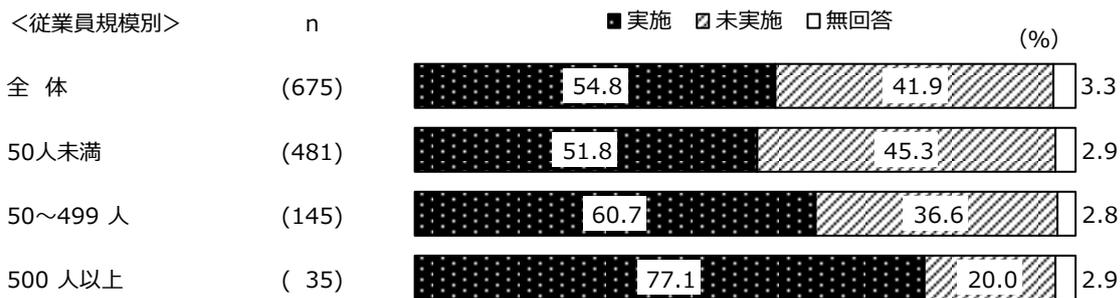
肺がん検診の実施率を従業員規模別にみると、[正社員] では【500 人以上】で 80.0%と最も高く、次いで【50~499 人】が 71.0%、【50 人未満】が 64.7%となっている。

(I)乳がん検診の実施率 [正社員] <従業員規模別>



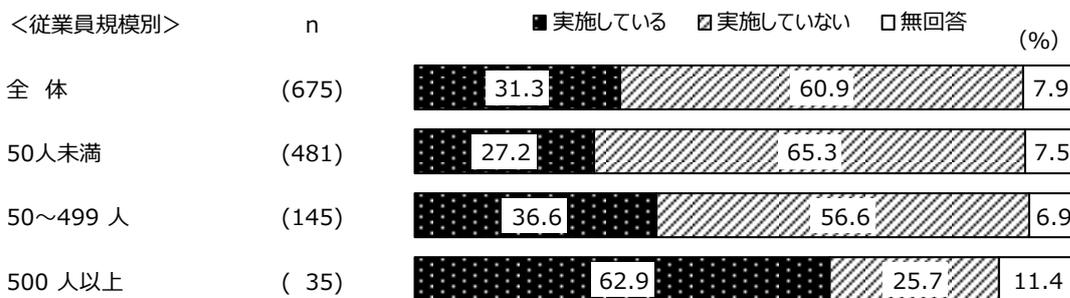
乳がん検診の実施率を従業員規模別にみると、[正社員] では【500 人以上】で 85.7%と最も高く、次いで【50~499 人】が 58.6%、【50 人未満】が 56.5%となっている。

(オ)子宮頸がん検診の実施率 [正社員] <従業員規模別>



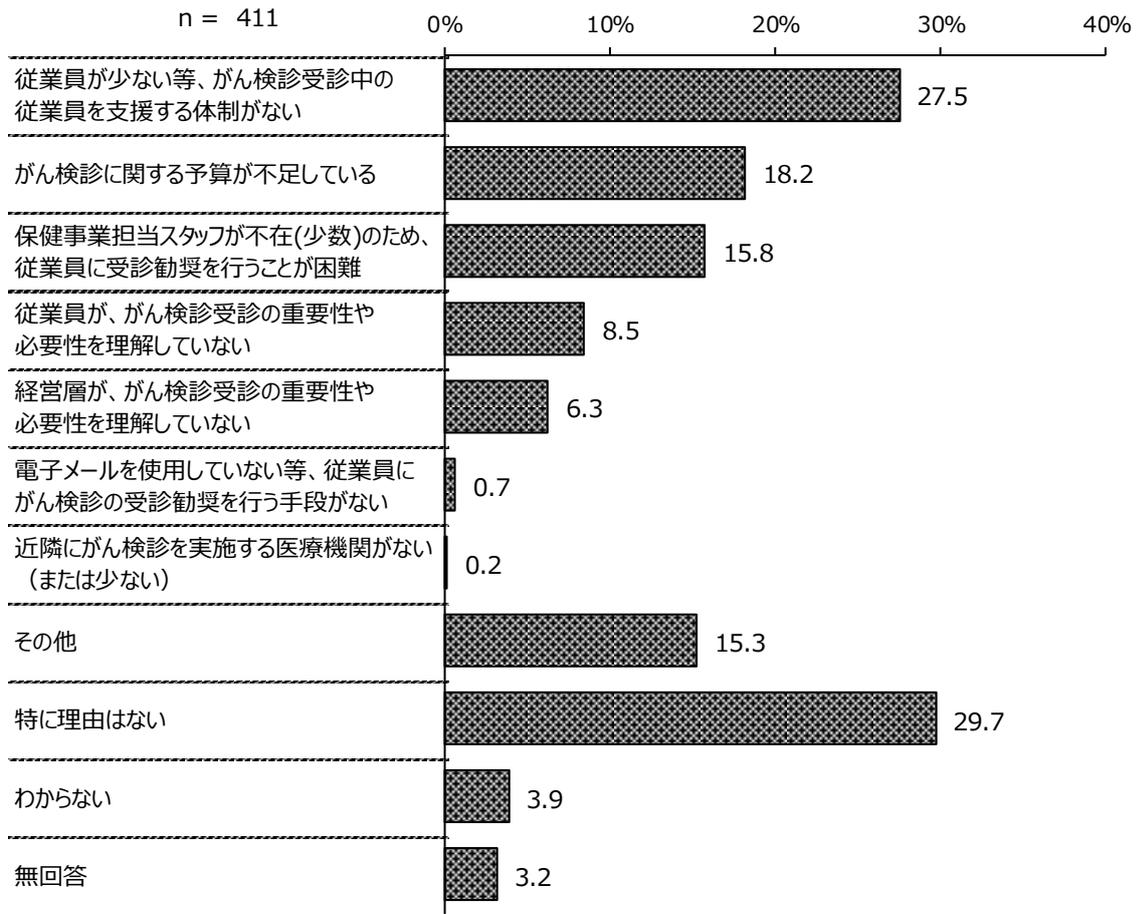
子宮頸がん検診の実施率を従業員規模別にみると、[正社員] では【500 人以上】で 77.1%と最も高く、次いで【50~499 人】が 60.7%、【50 人未満】が 51.8%となっている。

イ がん検診の受診者を増やす取組の実施の有無について <従業員規模別>



がん検診の受診者を増やす取組の実施状況を従業員規模別にみると、【500 人以上】で 62.9%と最も高く、次いで【50~499 人】が 36.6%、【50 人未満】が 27.2%となっており、従業員規模が大きくなるにつれ、取組の実施率が上昇している。

ウ がん検診の受診者を増やす取組を実施していない理由について（複数回答）

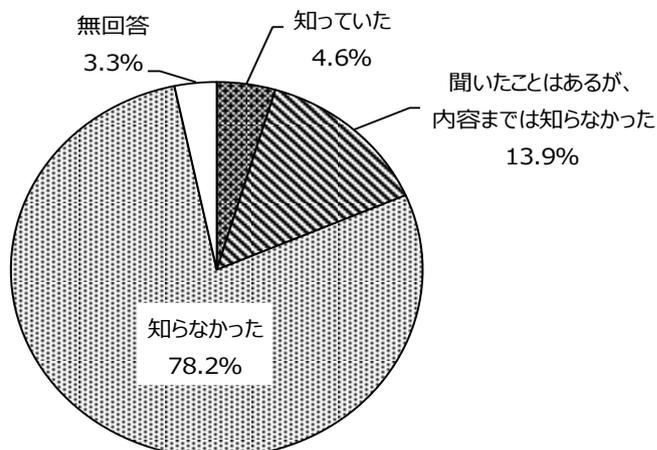


がん検診の受診者を増やす取組を実施していない理由は、「従業員が少ない等、がん検診受診中の従業員を支援する体制がない」が最も高く27.5%、次いで「がん検診に関する予算が不足している」が18.2%、「衛生管理者など保健事業を担当するスタッフが不在（または少数）のため、従業員にがん検診の受診勧奨を行うことが困難」が15.8%となっている。「特に理由はない」は29.7%となっている。

エ 「職域におけるがん検診に関するマニュアル」※の認知度について

※職域におけるがん検診を効果的に行うため、保険者や事業者が福利厚生の一環として任意でがん検診を実施する際の参考として、厚生労働省が平成30年3月に策定した。

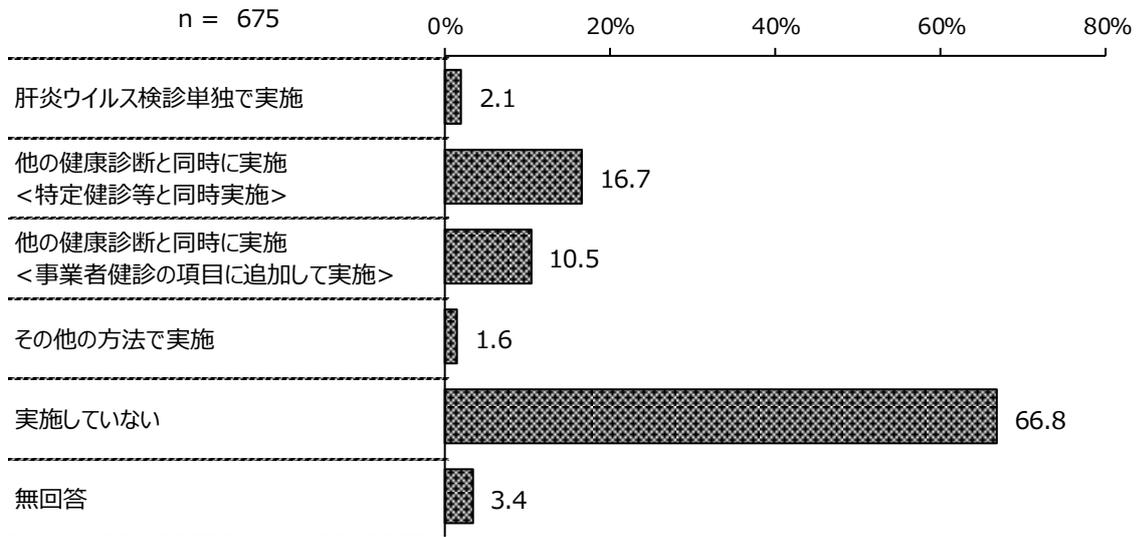
n = 675



「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の認知度は、「知らなかった」が最も高く78.2%、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」が13.9%、「知っていた」が4.6%となっている。

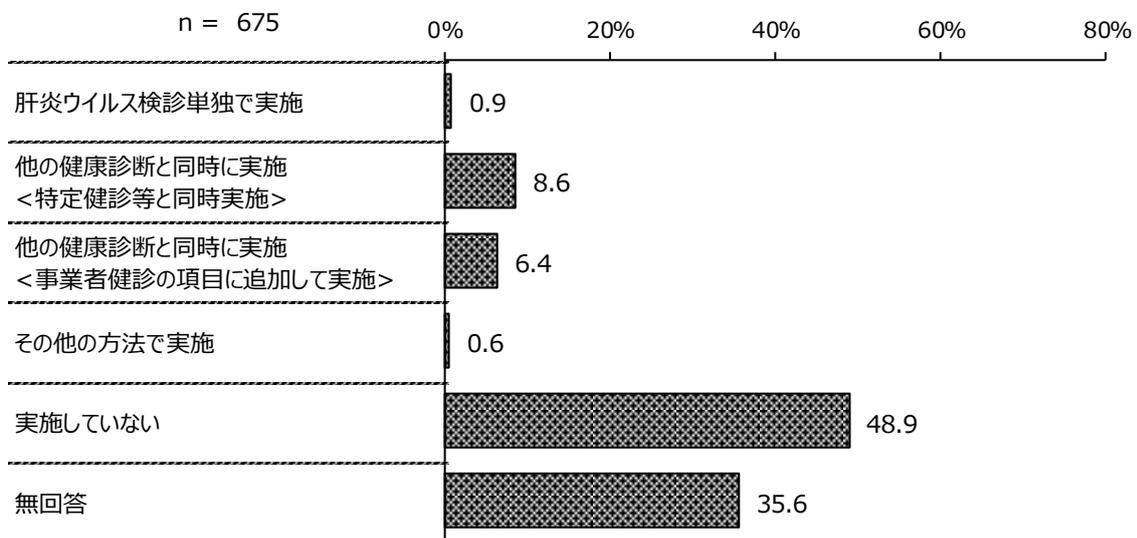
オ 肝炎ウイルス検診の実施状況（実施の有無）について

〔正社員〕の肝炎ウイルス検診の実施状況



〔正社員〕の肝炎ウイルス検診の実施状況は、「実施していない」が最も高く 66.8%、次いで「他の健康診断と同時に実施<特定健診等と同時実施>」が 16.7%、「他の健康診断と同時に実施<事業者健診の項目に追加して実施>」が 10.5%となっている。

〔正社員以外〕の肝炎ウイルス検診の実施状況

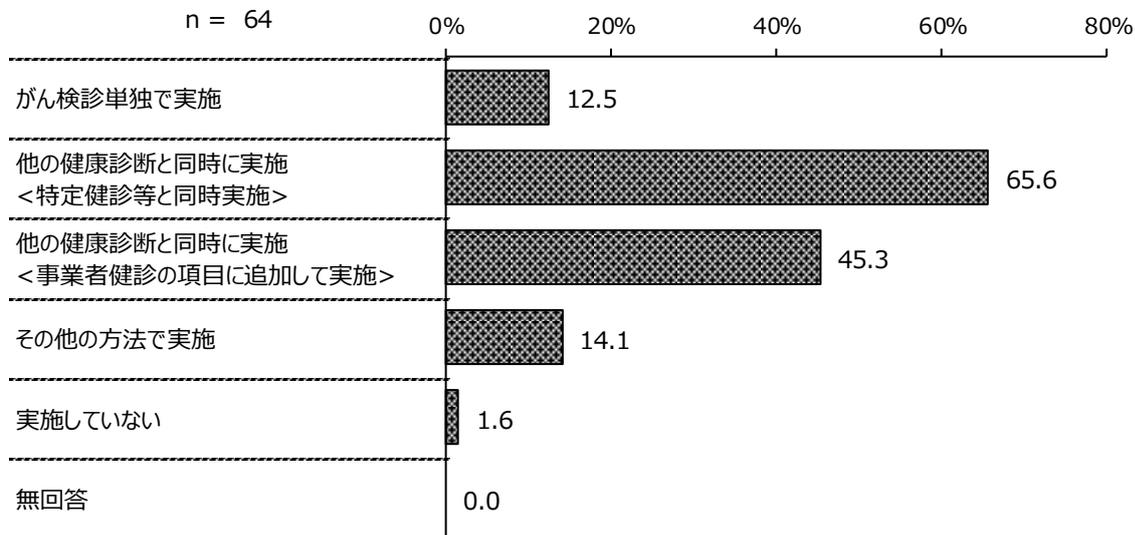


〔正社員以外〕の肝炎ウイルス検診の実施状況は、「実施していない」が最も高く 48.9%、次いで「他の健康診断と同時に実施<特定健診等と同時実施>」が 8.6%、「他の健康診断と同時に実施<事業者健診の項目に追加して実施>」が 6.4%となっている。

(2) 健康保険組合調査

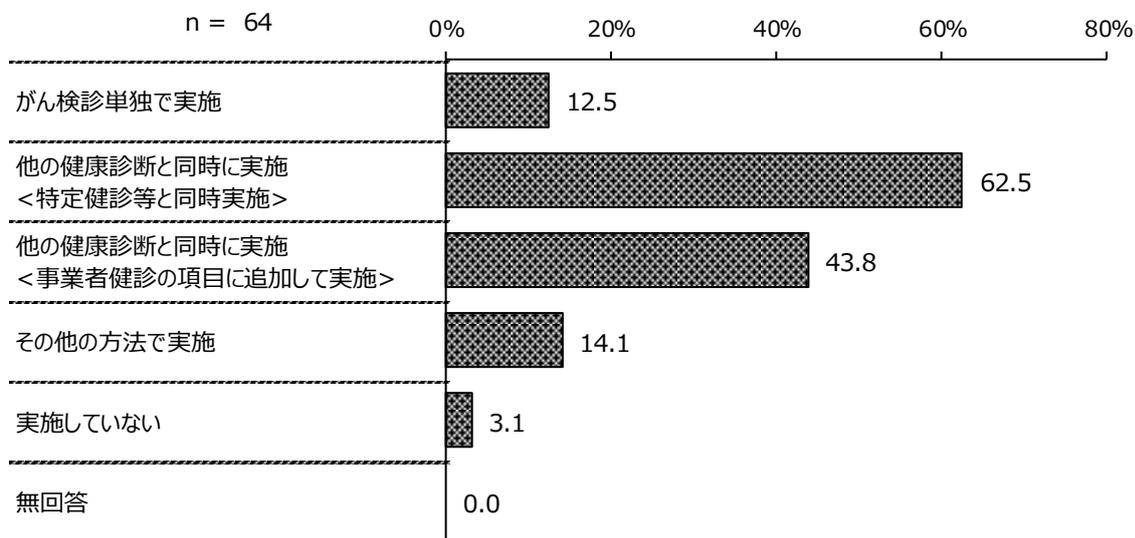
ア がん検診の実施状況について（複数回答）

(ア) 胃がん検診の実施状況 [組合員]



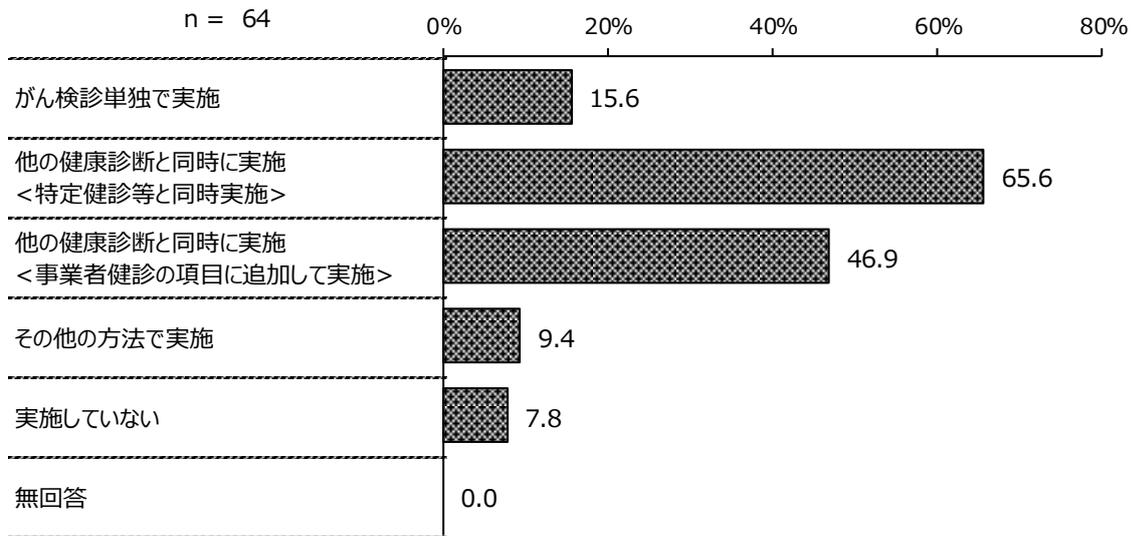
【組合員】の胃がん検診の実施状況は、「他の健康診断と同時に実施<特定健診等と同時に実施>」が最も高く65.6%、次いで「他の健康診断と同時に実施<事業者健診の項目に追加して実施>」が45.3%、「がん検診単独で実施」が12.5%となっている。

(イ) 大腸がん検診の実施状況 [組合員]



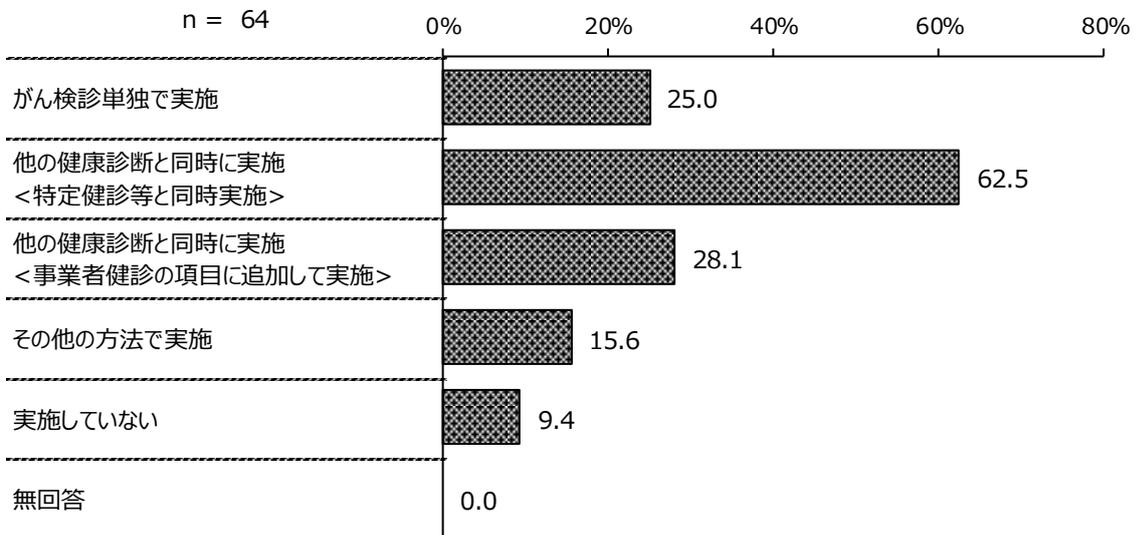
【組合員】の大腸がん検診の実施状況は、「他の健康診断と同時に実施<特定健診等と同時に実施>」が最も高く62.5%、次いで「他の健康診断と同時に実施<事業者健診の項目に追加して実施>」が43.8%、「その他の方法で実施」が14.1%となっている。

(ウ)肺がん検診の実施状況 [組合員]



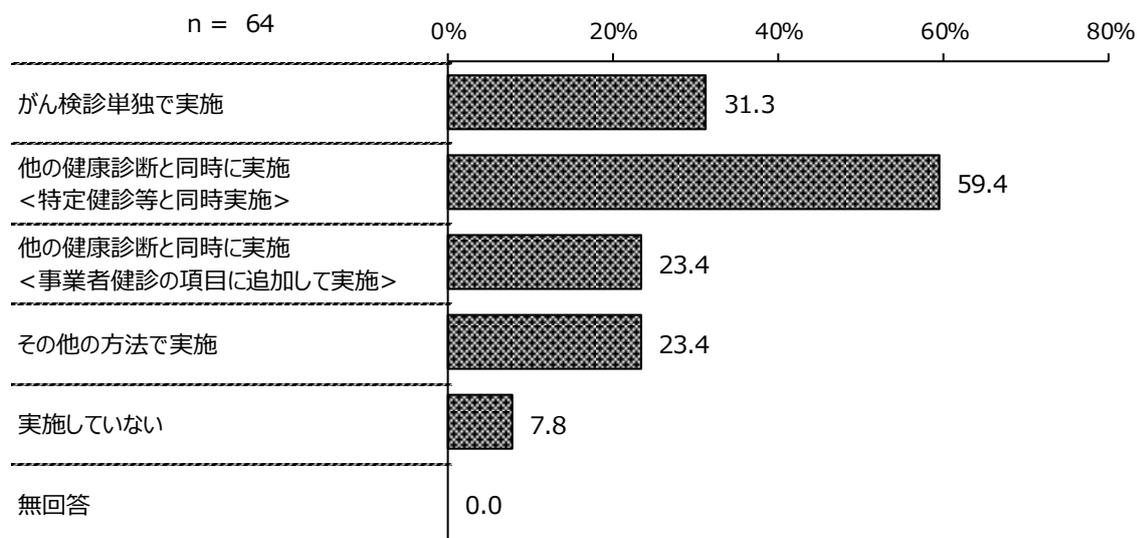
[組合員] の肺がん検診の実施状況は、「他の健康診断と同時に実施<特定健診等と同時に実施>」が最も高く 65.6%、次いで「他の健康診断と同時に実施<事業者健診の項目に追加して実施>」が 46.9%、「がん検診単独で実施」が 15.6%となっている。

(I)乳がん検診の実施状況 [組合員]



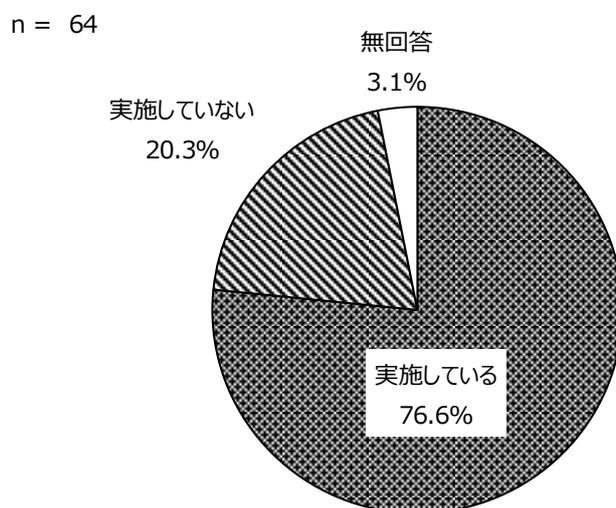
[組合員] の乳がん検診の実施状況は、「他の健康診断と同時に実施<特定健診等と同時に実施>」が最も高く 62.5%、次いで「他の健康診断と同時に実施<事業者健診の項目に追加して実施>」が 28.1%、「がん検診単独で実施」が 25.0%となっている。

(オ)子宮頸がん検診の実施状況 [組合員]



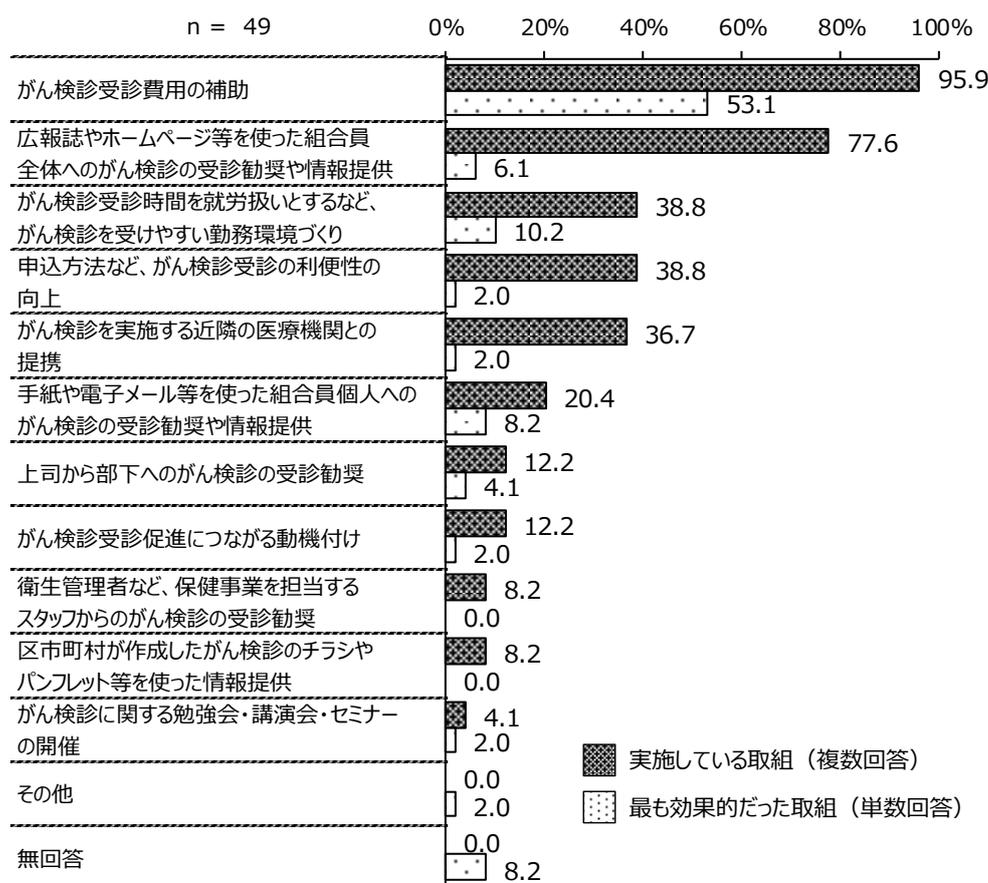
[組合員] の子宮頸がん検診の実施状況は、「他の健康診断と同時に実施<特定健診等と同時に実施>」が最も高く 59.4%、次いで「がん検診単独で実施」が 31.3%、「他の健康診断と同時に実施<事業者健診の項目に追加して実施>」と「その他の方法で実施」が 23.4% (同率) となっている。

イ がん検診の受診者を増やす取組の実施の有無について



健康保険組合でのがん検診の受診者を増やす取組の実施の有無は、「実施している」が 76.6%、「実施していない」が 20.3%となっている。

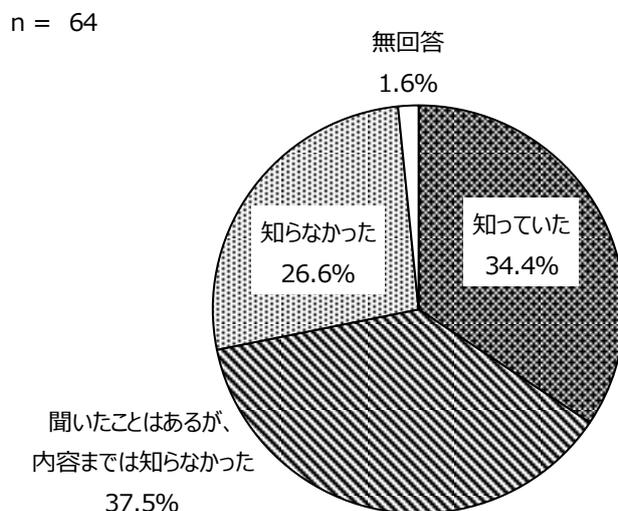
ウ がん検診の受診者を増やすために実施している取組について



健康保険組合で実施している取組の上位3つは、「がん検診受診費用の補助」が95.9%、「広報誌やホームページ等を使った組合員全体へのがん検診の受診勧奨や情報提供」が77.6%、「がん検診受診時間を就労扱いとするなど、がん検診を受けやすい勤務環境づくり」、「申込方法など、がん検診受診の利便性の向上」が38.8%（同率）となっている。

健康保険組合での最も効果的だった取組の上位3つは、「がん検診受診費用の補助」が53.1%、「がん検診受診時間を就労扱いとするなど、がん検診を受けやすい勤務環境づくり」が10.2%、「手紙や電子メール等を使った組合員個人へのがん検診の受診勧奨や情報提供」が8.2%となっている。

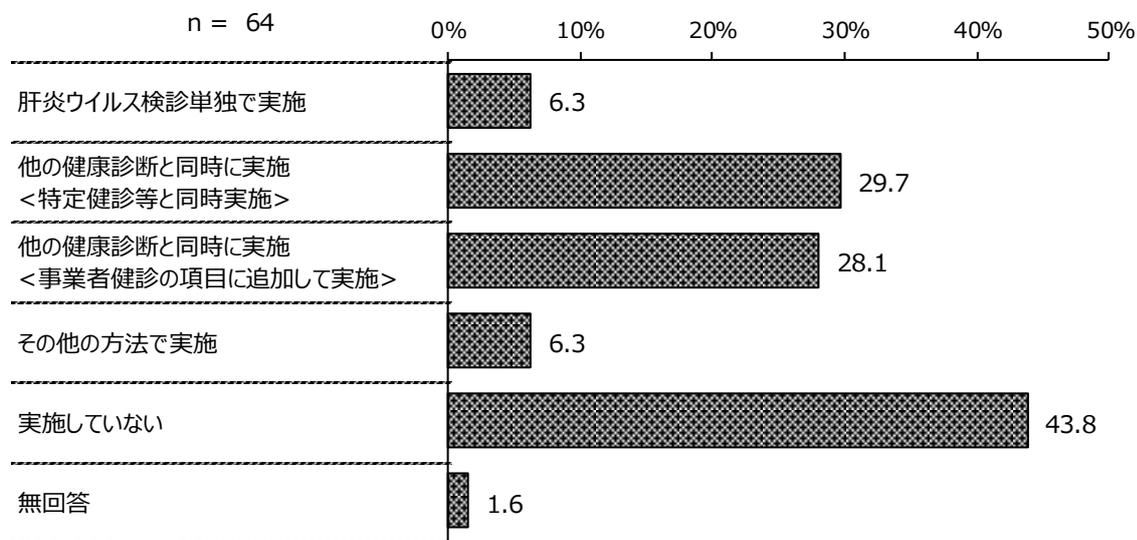
エ 「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の認知度について



「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の認知度は、「聞いたことはあるが、内容までは知らなかった」が最も高く37.5%、次いで「知っていた」が34.4%、「知らなかった」が26.6%となっている。

オ 肝炎ウイルス検診の実施状況（実施の有無）について

〔組合員〕の肝炎ウイルス検診の実施状況



〔組合員〕の肝炎ウイルス検診の実施状況は、「実施していない」が最も高く 43.8%、次いで「他の健康診断と同時に実施<特定健診等と同時に実施>」が 29.7%、「他の健康診断と同時に実施<事業者健診の項目に追加して実施>」が 28.1%となっている。

